

株主通信 (第84期 第3四半期)

2018年4月1日～2018年12月31日

証券コード 6365

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第84期 第3四半期の株主通信をお届けいたします。

「New DMW 中期経営計画2019」において、海水淡水化ビジネスの確立を重点テーマの1つに掲げていますが、このたび、海水淡水化設備用のエネルギー回収装置を受注いたしました。今後も引き続き、同ビジネスに注力し、安定した受注の確保と生産体制の確立に取り組んでまいります。

世界経済の先行きが不透明感を増すなかで、変化する環境とニーズに対応すべく、次世代に向けた新たな商品開発、働き方改革などの重点テーマにも取り組み、当社のブランド化を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年3月

代表取締役社長

土屋 忠博



事業の概況

■経営環境

当第3四半期連結累計期間の海外経済は、米国が堅調さを維持したものの、中国では米国との貿易摩擦の長期化などにより景気の減速傾向が見られ、欧州でも輸出の減少などにより景気回復が鈍化しました。今後、米中間の貿易摩擦の激化やそれに伴う中国経済の減速、英国のEU離脱問題の混迷などが懸念されることから、全体として景気の先行きは不透明な状況が続いています。日本経済は企業収益の改善を背景とする設備投資の増加や雇用・所得環境の改善により、緩やかな景気の回復が続きましたが、通商問題の動向による影響が懸念されています。

■経営成績

当第3四半期連結累計期間における受注額は、前年同期に対し100.9%の134億99百万円となりました。

売上高については、国内民需部門が前年同期に比べて増加したことから、前年同期に対し108.4%の82億91百万円となりました。また、利益については、利益率の良い売上案件があり前年同期に比べて改善したものの、営業損失1億29百万円(前年同期営業損失2億78百万円)、経常損失45百万円(前年同期経常損失1億76百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失50百万円(前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失1億49百万円)となりました。

なお、当社グループの売上高は、公共事業物件の割合が高いため連結会計年度末に集中する傾向があり、四半期別の業績には季節的変動があります。

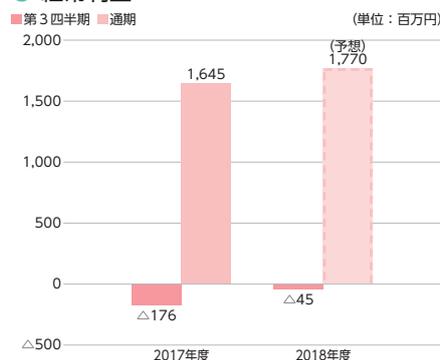
2019年3月期の連結業績予想につきましては、2018年11月8日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

連結財務ハイライト

●売上高



●経常利益



●親会社株主に帰属する当期純利益





RO膜法海水淡水化設備用エネルギー回収装置

当社は、「New DMW 中期経営計画2019」の重点テーマの1つである海水淡水化ビジネスの確立に向けて、営業活動に注力しています。

このたび、RO膜法（逆浸透膜法）海水淡水化設備に使用されるエネルギー回収装置DeROs®、及びRO高圧ポンプ他、一式を国内の塩業メーカーより受注しました。

当社の新製品であるエネルギー回収装置DeROs®は、国内と米国で特許を取得しており、2016年度には優秀省エネルギー機器として、日本機械工業連合会会長賞を受賞しました。

RO膜法海水淡水化設備は、高圧海水をRO膜に通過させることで、送水量の約半分が淡水となり、残りの約半分が高圧濃縮海水となります。エネルギー回収装置DeROs®は、この高圧濃縮海水の圧力エネルギーを回収・再利用して、造水コストを半減させることができます。今回、これにより得られた淡水は化成品製造で使用され、更に濃縮海水も利用されます。

当社製品の優れた省エネルギー効果が高く評価され受注に至りました。

(DeROs®はエネルギー回収装置の商品名です。)



● エネルギー回収装置 (DeROs®)



非鉄金属プラント向けガスブロワ

銅や貴金属などの生産を行う国内非鉄金属プラント向けに、高効率ガスブロワを出荷しました。

同ブロワは、銅を製錬する過程で発生するガスから硫酸を製造する工程で使用されるもので、当社実績最大クラス（口径1,300mm×1,000mm／出力2,500kW）となっています。

高効率ブロワによる省エネルギー効果ならびに同プラントへの送風機納入実績を評価され、受注に至りました。



● 工場試運転時のガスブロワ

ホームページ
のご案内

当社ホームページ

<http://www.dmw.co.jp/>

最新のIR情報につきましては、
当社のホームページ「IR情報」を
ご参照ください。

「株主・投資家情報」
検索はこちらから▼

電業社 IR

検索

